

Newsletterは、東京YWCAの事業活動を皆様にお伝えするための広報紙です。毎回特集で取り上げる事業を中心に、東京YWCAの今をお届けします。

特集

新型コロナ  
COVID-19

世界中で猛威をふるう新型コロナウイルスのため、日本でも2回目の緊急事態宣言が出されました。人と人が直接会うことが制限される中で本来の事業をどこまで実施できるか、オンラインでの取り組みと緊急支援についてお伝えします。

# “コロナの中でも歩みを止めない”

## 「留学生の母親」運動 困窮する留学生に奨学金支給

### コロナのために学業をあきらめてほしくない 今、私たちができる支援をできるかぎり

2020年夏に新型コロナ感染の第2波が来たころ、東京YWCAでは日本で学ぶ外国人留学生を支援するため、特別奨学金の支給を検討していました。第1波の際、外国人留学生は日本国内に留め置かれ帰国ができない一方、生活のためのアルバイトが激減するなど経済的に厳しく、夏には状況がさらに悪化していました。あと少しでも卒業できるはずの留学生たちが何とか勉学を全うする手助けにと、特別奨学金の対象を、大学3、4年生及び専門学校最終学年としました。奨学金のために寄付を集めながら9月に募集を開

始。11月に選考の結果82人の応募者から20人に一人5万円を支給しました。応募書類からは、母国の家族も経済的打撃を受け、仕送りがまったく受けられなくなり、貯金を切り崩して生活する様子や、オンライン授業で友人や指導者と会えずに異国で孤独を感じながら勉強する様子が伝わってきました。受けた奨学金は家賃や食費、卒業論文のための参考書代などに充て、学業や就職活動に集中できたという報告が届いています。この特別奨学金は2021年度も実施予定です。皆様のご支援をお願いいたします。



初めまして この時期に会えて嬉しい

### 精神的サポートとしての 「組み合わせ」

「留学生の母親」運動は、ホームステイではなく留学生と東京YWCA会員(母親)との1対1の「組み合わせ」を通して家族のような交流を土台に留学生をサポートしています。2020年度はコロナの影響で留学生の入国が遅れたため、秋に募集を行い、例年より少ない20組の組み合わせが誕生しました。「母親」が留学生を気持ちの面で支えます。



「組み合わせ」留学生と「母親」が初めて会う「対面の会」。一瞬マスクを取って皆で記念写真。2021年度も秋に組み合わせを行う予定です

# 私たち女性が描く未来予想図

## Rise Up! School Visits始動! オンライン・セーフスペースからスタート

東京YWCAのRise Up! School Visitsは、日本YWCAに加盟する37校の中高YWCAのうち関東地域の学校の部活を訪問し、ワークショップ形式で「人権教育としての性教育」を提供するプログラムです。立ち上げの原動力となったのは、2019年3月、日本YWCAから、CSW\*に派遣された



Rise Up! @World YWCA 2017

20代を中心とした若い女性たちが世界中のジェンダー問題を目の当たりにした経験にあります。彼女たちは、日本にある、見て見ぬふりをする社会的風潮や教育制度の中に、ジェンダー平等の価値観を教える包括的な性教育が欠如していることを痛感しました。中高生が人権やセクシャリティについて考える機会は、将来、自分の性と生殖に関して自己決定できる力を養うために必要だと考えています。学校の授業がオンラインで行われる中、8月末に「オンライン・セーフスペース」(誰にとっても安心安全な空間)を開催しました。学びと実践を重ねユースが主体的に関われる場を企画運営する協力メンバーを募集しています。

\*CSW(Commission on the Status of Women / 国連女性の地位委員会)



YWCAで活動するユースたち

## 1億人の女性・少女が作る 暴力・戦争のない世界

2015年世界YWCA総会で「2035年には、1億人の若い女性と少女が、正義とジェンダー平等を実現し、暴力・戦争のない世界をつくるため権力構造を変革し、すべての女性にインクルーシブで持続可能なYWCA運動を先導する」という共通目標が採択されました。Rise Up!は、「若い女性と少女のエンパワメント、権利、リーダーシップを促進し、そこに投資する」という行動計画の一環です。

# 支援者トレーニングをオンラインで初開催

## DV被害者の支援者をエンパワー 学んでつながり、孤立しないように

新型コロナウイルスの感染拡大により社会的ストレスからDVは増加傾向にあり、今まで以上にDV被害者の支援に携わる人材の養成が必要とされています。東京YWCAでは支援者が疲弊することなく、よりよい支援を持続的に行えるよう支援者トレーニングを実施してきました。従来の対面形式による講義と体験ワークを、オンラインで実施するため昨秋から開発に取り組みました。開発で一番難しかった点は今まで評価されてきた参加者同士の交流を促し安心できる場作りをどう実現するかでした。同じことをしても対面での空気感には適いません。そこで従来の方法にこだわらずオンラインでもこれまでの良さを失うことなくトレーニングの目的が達成できるよう検討しました。満を持し2月に開催したオンライントレーニングは、北は北海道、南は長崎、全国からの参加者24名で満席となり、無事3日間(計7.5時間)を終了できました。

\*本トレーニングはジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループの助成を受けて実施しています。



チームワーク抜群! トレーナーチームとサポートスタッフ

参加者からはオンラインでここまでできることに驚いた等、好意的な声が多くありました。開発チームは今回、対面とオンラインのトレーニングは、同じ目的でも全く別のものであると実感しました。ポストコロナではそれぞれのメリットを支援者に選択してもらい、2本柱で支えていくことを目指します。

### お問い合わせ先・最新情報

東京YWCA

財団管理部企画課

☎ 03-3293-5436 ✉ [kaiin@tokyo.ywca.or.jp](mailto:kaiin@tokyo.ywca.or.jp)

🏠 <https://www.tokyo.ywca.or.jp/news/>





## 外出制限の中で心身の健康を保つために

### 適度な運動はストレスの軽減にも効果 女性専用フィットネスクラブ

昨春、新型コロナウイルス感染が拡がり始めた頃に、感染の不安から退会や休会する人が急増しました。健康づくりの場がその役割を果たしていけるのか先行きが危ぶまれましたが、6月の事業再開以降は、安心して運動できるよう業界団体のガイドラインに沿って換気や消毒、人数制限などに取り組み、利用者にはマスク着用や会話の制限などの協力を呼びかけて感染予防対策の徹底に努めています。運動を再開した人の中には、休んでいる間に体重が増えたり、身体に痛みが出たり、動きにくくなったなどの変化があった人は多く、外出自粛により身体を動かす機会が減ったことが身体機能の衰えにつながっていることがうかがえます。運動を再開し継続することで徐々に身体は回復し、身体を動かす楽しさを再認識したとの声もきかれま



マスクをつけてステップエクササイズ

す。適度な運動は身体的効果だけでなくストレスや不安感の軽減など心理的な効果もあります。仕事や生活の変化に伴う大変さを抱えている人は多いと思います。生活の中にその人なりの運動を加えていけるよう願っています。

## 障がい児「きょうだいの会」 おとなも子どもも安心できる場に

### 障がい児の兄弟姉妹”きょうだい児”と家族の 力になれるよう活動を続けています

「障がい児「きょうだいの会」」は障がい児ときょうだい児を育てる家族のための活動です。密を避けるためいつも通っているデイサービスの回数が減ったり、好きな場所に遊びに行けない等、障がい児がストレスの発散ができず、家族がいつも以上にそのケアに当たっています。その中で我慢させてしまう場面が多いきょうだい児に思いきり遊んできてほしい、ときょうだい児の活動「きらりんこ」に子どもを送り出す家庭も多く、8月から再開した活動には毎回、例年より多い参加者があります。親同士の情報交換の場「いどばた」は同じ立場で思いを語り共感しあえる時間となっています。家族で楽しむプログラム「ふあみりんこ」の恒例のバーベキューが再びできる状況になることを願いながら、今できる活動を続けています。



クリスマスにお菓子のリース作り！

り出す家庭も多く、8月から再開した活動には毎回、例年より多い参加者があります。親同士の情報交換の場「いどばた」は同じ立場で思いを語り共感しあえる時間となっています。家族で楽しむプログラム「ふあみりんこ」の恒例のバーベキューが再びできる状況になることを願いながら、今できる活動を続けています。

## 電話相談 シニアダイヤル

### 人との関わりが減った 今こそ必要な話し相手

家族や友人、人と接する機会をもつことが難しくなっている中、様々な内容の電話がかかってきます。誰かと話ができることで安心する方もあり、相談の場が必要とされていることを強く感じます。これからも研修を受けたボランティアが、感染対策をしながら月曜～土曜の午後に電話をお受けします。



お電話をお待ちしています

## ● 東日本大震災被災者支援事業 10年を超えて、さらに続く

福島では、震災から10年をどのように感じているのでしょうか。2021年3月に、これまで何回か東京にお呼びしてお話を伺ってきた福島の高校教諭で写真家の赤城修司さんを迎えて講演会を開きたいと2年前から計画していました。しかし12月の急激な感染拡大で4月以降に延

期を決めました。お会いすることで伺えることがあると考え、オンラインの実施は計画しませんでした。東京YWCAでは東日本大震災支援を中長期にわたって実施します。21年度は、福島の子どもたちを東京YWCAのキャンプに呼ぶ転地保養等も予定しています。



今年の夏は、行きたいな

